



夏本番。この時期、そらいろの故郷は緑の絨毯に覆われます。田圃の稲が大きく成長し、間もなく稲穂が出てきます。桃の出荷も最盛期を迎えました。今年は甘く瑞々しい桃を満喫。自然の恵みはありがたいものですね。梅雨明け後の猛暑が気がかりですが、無事に秋の収穫を迎えたいものです。



難病で立位、歩行困難となったMさんの入浴ケア

「お風呂に入る」をあきらめない

●初めての来所が3月

立つことが難しい。当然歩くことができない。そんなM（78歳）がそらいろデイを利用することになったのは今年の3月のことです。初めての担当者会議の際、ベッドサイドに座りながら話をしているMさんに「ちょっと立ってみましょうか」と声をかけ介助すると、意外と立つことができ、これならお風呂に入ることができる、と考えていたのですが、実際にデイに来所し浴室で洗い台に移乗しようとする、立つことが難しい状況であることがわかりました。ここから、試行錯誤のMさんの入浴ケアが始まりました。

●入浴可能となる条件

そらいろデイの檜のお風呂は、自立式浴槽というもので麻痺のある方や車椅子の方も普通に入ることができるお風呂です。これまでさまざまな障がいを持った多くの方々のお風呂を経験してきたことから言える入浴可能となる条件が二つあります。その一つは何よりも本人が「お風呂に入りたい」と思うこと。そしてもう一つがわずかでもいいから「介助で立位が取れる」ことです。

●端坐位がとれない

Mさんは、原因不明の両下肢脱力で立つことはもちろん歩くこともできなくなったのが5年前。以来、自宅でベッド生活を送っています。そしてリハビリ型のデイとショートステイを利用してきました。デイでもショートステイでもお風呂はシャワーチェアに移乗。シャワーのお湯をかけるお風呂だったといえます。

●二人介助でのお風呂

そんな中、入浴ケアが始まりました。まずは短い時間でもいいから普通の椅子へ移乗して過ごすこと。利用当初は全く踏ん張ることができないため、前から担ぐような形での移乗介助からスタートしました。お風呂でも車椅子から洗い台に全介助で移乗して身体を洗い、再び車椅子へ移乗。端坐位が充分に取れないため、二人介助での対応です。

●前かがみの姿勢をつくる

こうして1か月が過ぎたあたりから、動かないと思っていたMさんの両下肢でしたが、両足首を動かせることや、左足は5cmほど上げることができることがわかってきた

スタッフと試行錯誤のドキュメント



麻痺のある方や歩行が難しい方でも普通にお風呂に入る、を支援する自立式浴槽

のです。僅かでも脚が踏ん張ることができるなら、移乗介助の際に前から抱える形ではなく、テーブルに前腕をつけて前かがみの姿勢を十分に作りながら、腰を上げて移乗介助することが可能になります。手を着く位置、車椅子の位置、足の位置などをその都度確認しながら、昼食時には必ず普通の椅子に移乗してきました。「前よりもいい感じで移乗できたね」「ほんとだ」。こんなやりとりをしながら車椅子に座ったままの生活から椅子に移乗する時間をつくっていきました。

●黙ってピースサイン

4月後半からは、浴室で洗い台に移乗し身体を洗った後、片足ずつ湯船に入れて、浴槽の縁を両腕でしっかりと持つ姿勢をつくるなど、お風呂に入るための動きを確認していきました。こうして1か月が経過したころのことです。朝お迎えに行くと奥様から「お風呂に入ってみよう」と言っていますよ、と嬉しいお知らせ。車の中で「今日湯船に入るよ」と声をかけると「はいってみよっか」。こうして5年ぶりに湯船に浸かることができたのです。「入れた！入れた！よかった」と喜ぶスタッフたち。それに対してMさんは黙ってピースサイン。

●肩まで浸かってため息

たかがお風呂、されどお風呂。肩まで湯に浸かって「ああ」とため息をもらすのが日本人。心が動けば身体も動く、なんですね。現在、Mさんは週2回のデイ利用ですが、毎回、当たり前のようにお風呂に入っています。入浴をあきらめない。普通のお風呂に普通に入るを支援する生活リハビリの本質を再認識できた3か月間でした。

5年ぶりに湯船につかる
肩までとっぷり思わずピースサイン